

視覚情報基礎研究会

Special Interest Group on Foundations of Visual Information(sig-FVI)

<https://color-science.jp/vision/labnews/>

主査 眞鍋佳嗣 (千葉大学)

(e-mail) sig-fvi-staff@mc2.osakac.ac.jp

視覚情報に関する最先端の学問や技術の学びと、若手研究者の積極的な育成。

人間が外界から得る情報の約8割は視覚情報と言われています。それらは、外界の光情報である物理面、視覚系と神経回路に関する生理面、大脳に投影されたイメージの知覚現象に関する心理面に代表され、相互に密接に関係し、視覚系全体から学際的な視点での研究と評価が必要です。

本研究会では、これらの研究対象に関して、著名な専門家から最先端の成果や技術を学び、一般講演を通じて議論を深めることができます。2009年に研究会が発足して以来、46回の研究発表会が実施され、80件以上の招待講演と約300件の一般講演がありました。また、日本色彩学会誌での特集論文や、国際会議等の開催に協力してきました。

この1年での研究発表会では、第45回において、

論文賞を受賞された富永昌治氏 (NTNU / 長野大学) による招待講演「相互照明効果を有する蛍光物体のアピランス生成」と5件の一般講演が、また第46回では、土田 勝氏 (日本電信電話株式会社) による招待講演「照明光スペクトルの最適化による色彩制御～Paris Fashion Week 2024 Spring/Summerでの実装～」と3件の一般講演がありました。さらに、秋の研究會大会で合同研究発表会に参加し、他研究会の会員を交えた議論・交流を実施しました。

今年度も、3月に研究発表会の対面での開催を計画しています。若手研究者の発表の場として、また関連研究会の発表の聴講や討議の場として、積極的にご参加ください。

色覚研究会

Special Interest Group on Color Vision

https://color-science.jp/color_vision/labnews/

主査 溝上陽子 (千葉大学)

(e-mail) sig-color-vision@ml.chiba-u.jp

私たちが色をどのように知覚しているのか、一緒に探っていきませんか？

色覚研究会は、私たちが色をどのように知覚しているのか理解し、応用面を含めて広く深く研究することを目的としています。色覚メカニズム、色の見え、色覚の多様性、カラーユニバーサルデザイン、色覚特性の応用など、色覚に関するあらゆる話題を対象としています。研究会の発表や専門家との交流を通して、色覚に関する知識を深め、色覚に関する様々な意見交換や議論ができます。

現在の幹事は、市原恭代 (工学院大)、岡嶋克典 (横浜国立大)、鍵本明里 (奈良女子大)、坂本 隆 (産業技術総合研究所)、篠森敬三 (高知工科大)、須長正治 (九州大)、辻村誠一 (名古屋市立大)、徳永留美 (千葉大)、顧問は、小町谷朝生 (東京芸術大名誉教授)、佐川 賢 (産

業技術総合研究所)、矢口博久 (千葉大名誉教授) です。

昨年度の研究會は2回開催しました。令和5年度秋の研究會大会合同研究発表会(令和5年10月28-29日)では、口頭発表19件と招待講演が行われました。令和5年度研究発表会(令和6年3月3日)は、ハイブリッド形式で行いました。一般講演6件と、木村英司氏(千葉大学)の招待講演「視野全域がカラフルに見える(ような気がする)メカニズム」が行われ、参加者は40名(現地14名、オンライン26名)でした。今年度も同様に研究会活動を継続していきますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。3月の研究会は、比較的少人数のアットホームな雰囲気ですので、ぜひお気軽にご発表、ご参加いただければ幸いです。